

社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける これまでの主な配布資料

(社会・地理歴史・公民ワーキンググループ(第2回)(平成28年1月18日)配布資料)

資料5 社会科、地理歴史科、公民科における思考力、判断力、表現力等の育成のイメージ

(社会・地理歴史・公民ワーキンググループ(第3回)(平成28年1月25日)配布資料)

資料5 「歴史基礎」「地理基礎」 単元構成図(一部抜粋)

資料7 「歴史総合(仮称)」の方向性・特色・構成イメージ(たたき台案)

資料8-1 「地理総合(仮称)」において重視する思考力等と授業イメージ(たたき台案)

資料8-2 授業実践事例集～地理総合(仮称)～

(社会・地理歴史・公民ワーキンググループ(第4回)(平成28年1月28日)配布資料)

資料7 公民科新設科目の方向性として考えられる構成(たたき台案)

(社会・地理歴史・公民ワーキンググループ(第5回)(平成28年2月8日)配布資料)

資料6 「社会科等における見方や考え方と思考力、判断力、表現力等」イメージ(たたき台案)

社会的事象の見方や考え方(追究の視点や方法)の例

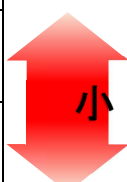


(たたき台案)(資料6の補助資料)

資料7 社会科等で育成すべき資質・能力の整理(たたき台案)

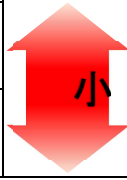
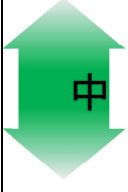

資料8 社会科における学習プロセスの例(たたき台案)

社会科、地理歴史科、公民科における思考力、判断力、表現力等の育成のイメージ


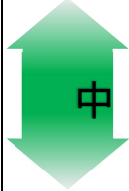

① 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力

・ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察できる			
・ 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる			
・ 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多角的に考察できる			
・ 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味、特色や相互の関連を考察できる			




② 社会に見られる課題や問題を把握し、その解決に向けて構想する力

・ 社会に見られる複雑な課題や問題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる			
・ 社会に見られる課題や問題を把握して、複数の立場や意見を踏まえて、解決について選択・判断できる			
・ 社会に見られる課題や問題を把握して、解決に向けて自分たちにできることを選択・判断できる			
・ 社会に見られる課題や問題を把握できる			

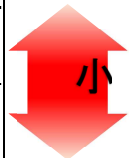
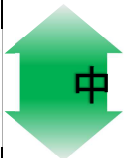

③ 考察したこと、構想したことを説明する力

・ 適切な資料・内容や表現方法を選び、社会的事象についての自分の考えを効果的に説明できる			
・ 主旨が明確になるように内容構成を考え、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			
・ 根拠や理由を明確にして、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			

④ 考察したこと、構想したことを基に議論する力

・ 合意形成を視野に入れながら、社会的事象について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論できる			
・ 他者の主張を踏まえたり取り入れたりして、社会的事象についての自分の考えを再構成しながら議論できる			
・ 他者の意見につなげたり、立場や根拠を明確にしたりして、社会的事象についての自分の考えを主張できる			

*** 参考 学習の見通しを持ち追究の結果を評価する力**

・ 追究の過程や結果を評価し、不十分な点を修正・改善することができる			
・ 追究の結果を振り返り、学んだことの成果等を自覚できる			
・ 学習問題（課題）を把握し、追究の見通しを持つことができる			

「歴史基礎」 単元構成図

主題学習		調査・発表活動, 歴史観的考察	
(1) 世界の一体化と日本	ア 諸地域世界の接触と交流 異なる地域世界が接触・交流した時、どのようなことが生じたのか？	異なる地域社会の接触・交流がもたらした「メリットとデメリット」とは？	世界の一体化 世界商品 ① マテオリッチと坤輿万国全図 ② 軍事革命と宣教師 ③ 世界商品の時代 ④ 経済発展の明・清帝国 ⑤ 鎖国と海禁 ⑥ 世界商品と日本 ⑦ 灘五郷の成立 調査 地域社会の接触・交流
	イ 近代国家の成立 国民国家はいつ誕生し、どのような特色を持ち、影響を与えたのだろうか？	どうして、いつ国民国家になったのか？	国民国家 ① 国民国家とは ② 環大西洋革命 ③ ナポレオン戦争とドイツ ④ 対立か協調か？ ⑤ 国民国家と植民地 ⑥ 国民国家と民族問題 ⑦ 移民の時代 調査 国民国家
	ウ アジアの近代と帝国主義 アジアの諸国は、どのように近代を迎えたのか？	大日本主義と小日本主義の相違点は？	アジアの近代 帝国主義 ① 外国から見た明治維新 ② アヘン戦争と自由貿易 ③ 清朝と朝鮮の改革 ④ 東アジアの中の日清戦争 ⑤ 世界史の中の日露戦争 ⑥ 東洋のマンチェスター ⑦ 神戸港とボンベイ航路 調査 大日本主義と小日本主義
(2) グローバル化した世界と日本	ア 現代の始まりと二つの世界大戦 20世紀前半、二つの世界大戦はなぜ起こり、世界をどう変えたのか？	日本が戦争を回避できる時点はあったのか？	世界大戦 民族自決 ① 戦争の変化 ② 総力戦としての第一次大戦 ③ ロシア革命とヴェルサイユ会議 ④ 消費社会と民主主義 ⑤ 全体主義の台頭 ⑥ 日中15年戦争の開始 ⑦ アジア・太平洋戦争 調査 日本の戦争回避
	イ 冷戦と第三世界 脱植民地化の動きと冷戦は、戦後世界にどのような変化をもたらしたのだろうか？	戦後のオリンピックと国際問題との関係は？	東西冷戦 脱植民地化 ① 独立リーダーの群像 ② 東西冷戦と中国・朝鮮 ③ アジア・アフリカ諸国の独立 ④ 日本の戦後講和 ⑤ 日本の戦後復興 ⑥ 日本の加盟と高度成長 ⑦ 分断国家のその後 調査 戦後のオリンピック
	ウ グローバル化と情報革命 20世紀末以降、国際政治の役割はどのように変わったのか？	持続可能な社会のために何が必要か？	地球の安全保障 人間の安全保障 ① 地球と人間の安全保障 ② ソ連解体と超大国アメリカ ③ 地域統合 ④ 地域紛争 ⑤ 情報革命とグローバル化 調査 ポスト「ミレニアム開発目標」

「地理基礎」 単元構成図

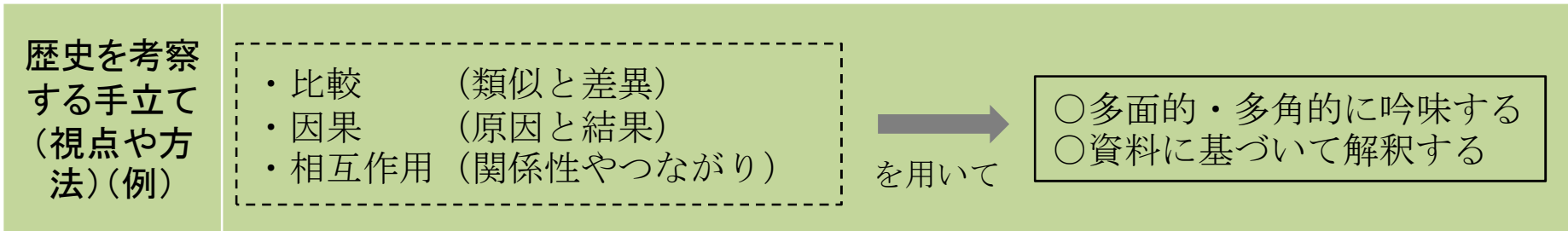
主題学習		ロジカルアプローチ・リージョナルアプローチ	
(1) 地球社会が直面する課題	ア 地球温暖化の現状と対策	ESD・GIS	中心概念 位置と分布, 場所
	地球環境問題 地球温暖化 地球温暖化の現状はどのようになっているのだろうか	ロジカル	地図と地理情報システム(GIS)の活用 地球社会はどのように表現されているのだろうか プレートテクトニクスと大地形 なぜ地球は現在のような姿になったのだろうか 大気の大循環と海洋の大循環 気候の違いはなぜ生まれるのだろうか
	イ 熱帯林の破壊が進んでいる地域の人間の活動	ESD	中心概念 人間と自然環境との相互依存関係
	地球環境問題 熱帯林の破壊 熱帯林などの森林の破壊はなぜ進んでいるのだろうか	リージョナル	熱帯林の分布 熱帯雨林はどこに分布するのだろうか 熱帯林の開発～東南アジアを事例に～ なぜ東南アジア諸国で主に信仰されている宗教は違うのだろうか 熱帯林の開発～ブラジルを事例に～ 南アメリカの地域性はどのように生まれたのだろうか なぜブラジルは発展することができたのだろうか
	ウ 砂漠化の進行している地域の人間の活動	ESD	中心概念 人間と自然環境との相互依存関係
	地球環境問題 砂漠化の進行 砂漠化はなぜ進んでいるのだろうか エネルギー問題 限りある資源・エネルギー 資源の枯渇に対してどのような対策が取られているのだろうか	ロジカル	砂漠の分布 砂漠はどこに分布するのだろうか 砂漠での生活と開発～西・中央アジアを事例に～ 西・中央アジアの地域性はどのように生まれたのだろうか 石油収入以外にどのような産業があるのだろうか エネルギー資源の開発～オーストラリアを事例に～ オーストラリアから日本へ運ばれているものは資源だけだろうか
(2) 持続可能な世界の構築	ア 現地化(ローカル化)の視点とグローバル化	グローバル化	中心概念 移動・空間的相互依存作用
	グローバル化 現地化(ローカル化) 日本は世界の諸地域にどのように現地化すれば良いのだろうか	リージョナル	日本の現地化(ローカル化)～南アジアとアフリカを比較して～ 南アジアの地域性はどのように生まれたのだろうか 日本の現地化(ローカル化)～アフリカと南アジアを比較して～ 日系企業はなぜアフリカに進出するのだろうか
	グローバル化 現地化(ローカル化) 世界の企業は日本にどのように現地化しているのだろうか。	ロジカル	北アメリカの自然環境～産業と自然環境の結びつきとは～ 人々はどのように厳しい気候を克服したのだろうか 日本への現地化(ローカル化)～多国籍企業の世界進出から～ アメリカ合衆国の産業は自然環境とどのように結びついているだろうか
	イ 地域共同体と持続可能な社会の実現	グローバル化	中心概念 地域
	グローバル化 地域共同体 日本はどの地域と地域共同体をつくれれば良いのだろうか	ロジカル	ユーラシア大陸の自然環境～日本とヨーロッパの比較のために～ ユーラシア大陸の東側と西側はなぜ気候が異なるのだろうか 日本のこれからと地域共同体～EUの広がり事例として～ ヨーロッパの地域差はどのようにもたらされたのだろうか なぜ日系企業は東ヨーロッパへ進出したのだろうか 日本のこれからと地域共同体～日本と東アジアを事例として～ 日本の領域はどこまでだろうか
	ウ 防災の視点と持続可能な世界の構築	防災・ESD	中心概念 人間と自然環境との相互依存関係
	持続可能な世界の構築 災害への備え・対策 持続可能な世界の構築のために何を学び何を身に付ければ良いのだろうか	リージョナル	日本の自然災害～身近な地域を事例として～ 日本の自然環境の特徴から起きる災害にどのように備えれば良いのだろうか 世界の自然災害～自然環境と自然災害の関係から～ 世界の自然災害に対してどのように支援すれば良いのだろうか 身近な地域の自然環境と防災 身近な地域ではどのような自然災害の可能性が高くどのように備えれば良いのだろうか

「歴史総合(仮称)」の方向性・特色・構成イメージ(たたき台案)

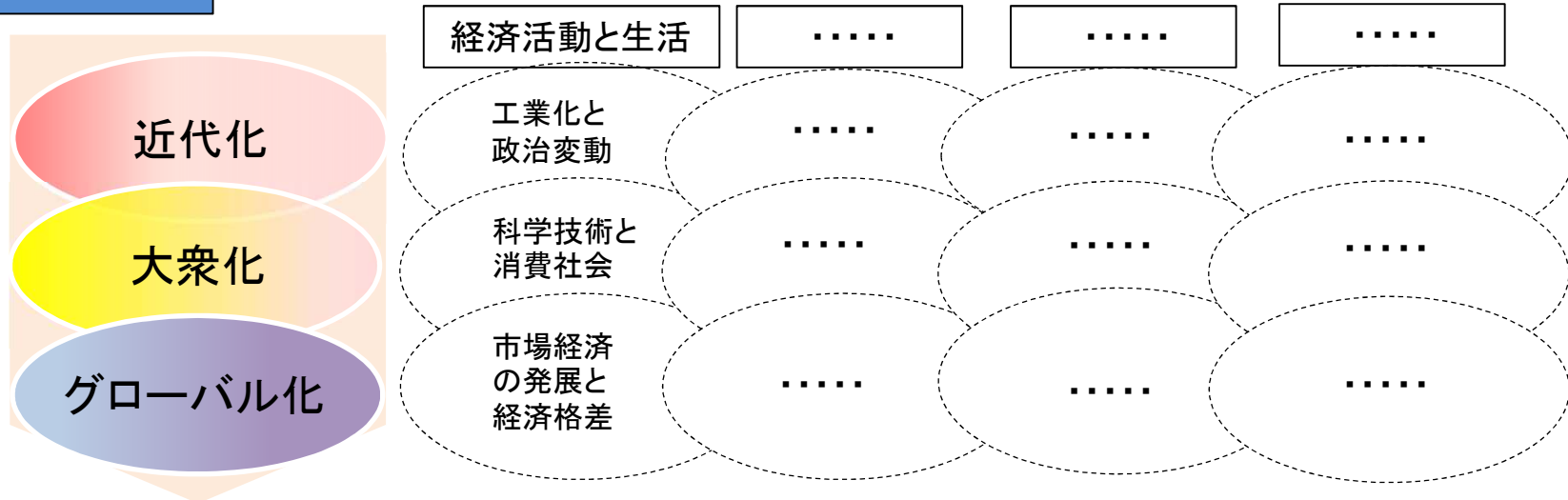
育成すべき資質・能力

「歴史総合(仮称)」では次の資質・能力を養う。

- 歴史を考察する手立て(視点や方法)を用いて、現代の諸課題の歴史的背景を追究する力
- 諸資料を適切に活用する技能
- 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質



構成イメージ



(参考) 現行高等学校学習指導要領における歴史系科目

歴史系A科目の内容のまとめ

【科目の導入】

世界史A

(1)世界史への
いざない

【内容】

(2)世界の一体化と日本

(ア ユーラシアの諸文明)
(イ 結びつく世界と近世の日本)
ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化
と国民形成
エ アジア諸国の変貌と近代の日本

(3)地球社会と日本

ア 急変する人類社会
イ 世界戦争と平和

ウ 三つの世界と日本の動向
エ 地球社会への歩みと課題
オ 持続可能な社会への展望

日本史A

(1)私たちの時
代と歴史

(2)近代の日本と世界

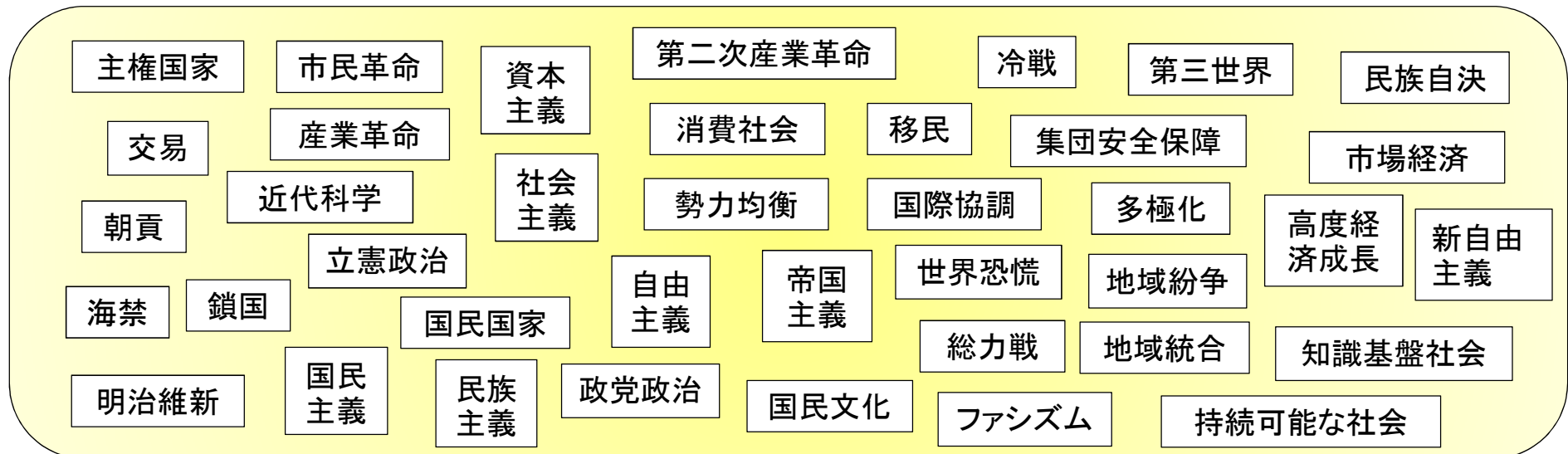
ア 近代国家の形成と国際関係の推移

イ 近代産業の発展と両
大戦をめぐる国際情勢
ウ 近代の追究

(3)現代の日本と世界

ア 現代日本の政治と国際社
会
イ 経済の発展と国民生活の
変化
ウ 現代からの探究

世界史・日本史に共通する主な学習の題材



「地理総合（仮称）」において重視する思考力等と授業イメージ（たたき台案）

平成28年1月25日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料8-1

項目構成(案)

重視する思考力, 判断力, 表現力等

問い と授業展開のイメージ

(⇒詳細は、別紙資料参照)

「地理総合」(仮称)

(1) 地図と地理情報システムの活用

(2) 国際理解と国際協力

ア生活・文化の多様性と国際理解

イ地球的な諸課題と国際協力

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ア自然環境と災害対応

イ生活圏の調査と持続可能な社会づくり

- 地図上に表された事象と実際のできごとを関連付けて考察する力
- 考察したことを、目的に応じて地図等にまとめ、効果的に説明する力
- 自然環境等に対応した世界の多様な生活・文化の意味や意義を理解し、自他の文化を尊重しつつ考察する力
- 考察したことを、資料を踏まえて説明する力
- 地球規模で見られる諸課題(環境, 資源・エネルギー, 人口, 食料, 住居・都市, 民族・領土等)について多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、根拠を明確にして議論する力
- 国内各地の自然環境とそこで現れる災害の傾向性を関連付けて課題を把握し、多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、資料にまとめて説明する力
- 生活圏に見られる課題について、その背景や要因等の分析に基づき、様々な解決策を吟味し、構想する力
- 構想したことを、実現可能性を指標に議論する力

「地理的な見方や考え方」を用いた授業設計

問いを重視した授業展開

㉗ なぜ出生率と、人口増加率は一致しないのだろう

出生率の高い地域が必ずしも人口増加率が高いわけではないことを、GISを用いて階級区分図の重ね合せを行い、その地域的な要因を考察する。〔他に、統計資料の分析、主題図の作成などの主題を設定〕

㉘ どうしてアンデスでは、湖上で生活する人々がいるのだろう

アンデス高地の地形や気候等の自然環境の特徴から、湖上で生活する理由を見出し、生活の多様性とその必然性について考察させ、異文化理解を図る。〔他に、衣・食や宗教などの主題〕

㉙ なぜウガンダでは、生産性で劣る陸稲が生産されているのだろう

食料難に悩むウガンダに対して、どのような手段で食料増産を促すための支援が可能なのか。支援で直面した課題とその要因を探り、国際協力の在り方について考察する。〔他に、地球温暖化対策などの主題〕

㉚ ハザードマップを読んで、私たちの町の防災について考えよう

複数のハザードマップから地域の自然環境の特徴を読み取り、その情報を比較、関連付けて、各地域で想定される災害を考え、地域ならではの対応策を考察する。〔他に、災害復旧・復興、都市計画などの主題〕

㉛ フードデザート解消のため、どのようなまちづくりを目指すべきか

中心業務地区の衰退等を背景に、今後どのようなまちづくりを行うべきか、地域調査により収集した諸資料を分析し、分析結果を踏まえた生活圏の在るべき姿を構想する。〔他に、環境対策などの主題〕

<補足；「学習の系統性, 段階性」>

- ・(1)の学習によって培った地理的な技能を、後の(2), (3)の学習や他教科・科目等の学習において実践的に活用する。
- ・(2)と(3)のそれぞれ「ア」で把握, 考察したことを基に、「イ」で議論, 構想(展望)する。
- ・(2)で学んだ各地の諸課題への対応策を、(3)の生活圏の諸課題解決の構想に生かす。(Think Globally, Act Locally)

公民科新設科目の方向性として考えられる構成①（たたき台案）

新必修修科目(案)

国家・社会の形成者を育成

平成28年1月28日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民ワーキンググループ
資料7

「公共」(仮称)

(1)「公共」の扉

別紙

「行為の結果において社会的効用としての幸福を重視する考え方」と
「(行為の結果よりも、)行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」

(2)自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

⇒社会を構成する主体となるために、協働の必要な理由、協働を可能とする条件、協働を阻害する要因などについて考察を深める。
その際、自立した主体として生きるために必要な知識を身に付けるとともに、現実の社会的事実と関連付け、習得した概念等を活用する。

キャリア教育
の中核機能

ア 政治的主体となること

⇒協働により目指すべきもの(議論により、意見や信念、利害の対立状況を調整し、合意形成することを通して、よりよい社会を築くこと)
・基本的人権の保障、国民主権、議会制民主主義、権力分立に基づく政治機構、政治参加の重要性、世論の形成の意義、財政と税、国際貢献、国際平和・・・

イ 経済的主体(生産者、労働者)となること

⇒協働により目指すべきもの(公正なルールを作ってその下で経済活動を行うことを通して、個人の尊重と経済の拡大をともに成り立たせること。またその補完を政府等が担っていること)
・市場経済の機能と限界、政府の役割(税を含む)、金融、職業選択、男女共同参画、雇用、労働問題(労働関係法制を含む)、社会保障、個人や企業の経済活動における役割と責任、経済のグローバル化や相互依存関係の深まり・・・

ウ 法的主体となること

⇒協働により目指すべきもの(個人の尊重を前提に、比較衡量などを通して、人間の尊厳と平等、社会の安定性をともに成り立たせること)
・民主主義、立憲主義、自由・権利と責任・義務、相互承認、所有、公正な手続き、参加・・・

エ 様々な情報を発信・受信する知的主体となること

⇒協働により目指すべきもの(情報に関する責任や、利便性と安全性を多面的・多角的に考えることを通して、望ましい情報社会を築くこと)
・情報モラル、消費者の権利や責任・・・

※ 様々な主体となる個人を支える家族・家庭や地域等にあるコミュニティ

⇒世代間協力・交流、自助・共助・公助等による社会的基盤の強化

学習活動の例

討論、ディベート
模擬選挙、模擬投票
模擬裁判
外部の専門家の講演
新聞を題材にした学習
体験活動、インターンシップの準備と振り返り・・・

関係する専門家・機関

選挙管理委員会、企業、
経済団体、起業家、弁護士、
報道機関、消費者センター、
留学生、NPO、NGO・・・

(3)持続可能な社会づくりの主体となるために

⇒個人を起点として、自立、協働の観点から、今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえつつ多様性を尊重し、持続可能な地域、国家、国際社会づくりに向けた役割を担う主体となることについて探究を行う。

ア 地域の創造

イ 持続可能な社会

ウ 我が国と国際社会

・地域の活性化、安全に配慮したまちづくり、持続可能な社会保障、文化と宗教の多様性、国際平和・・・などについて探究

家族・家庭、消費者等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、情報リテラシーを扱う情報科、個人の安全指導を保健体育科と連携

(別紙) 公民科新設科目の方向性として考えられる構成② (たたき台案)

新必修修科目(案)

「公共」(仮称)

(1)「公共」の扉

倫理的主体となること

ア 公共的な空間に生きる私たち

⇒今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、

・様々な立場や文化等を背景にして社会が成立していること

・①「自分らしい生き方」を問いながら自らを成長させること、

②人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うこと、

両者によってよりよい集団・社会を作り出していくこと(勤労観・職業観の育成を含む) について学んではどうか。

イ 公共的な空間における人間としての在り方生き方

⇒社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための基準となる、

①「行為の結果において社会的効用としての幸福を重視する考え方」、

②「(行為の結果よりも、)行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」、

について理解させる。その際、

・人が追求するものは経済的価値に限られるものではなく、多義的であること

・両者ともに活用し、自分も他者もともに納得できる解を見出そうと考えていくことが重要であること

・社会的効用について、多面的・多角的に考えていくことが重要であること

・行為の動機について、個々の動機に留まらず、それらを継続的に考えていくことにより、人間としての在り方生き方について考えていくことが重要であること

などを取り上げてはどうか。

(指導のねらいを明確にした上で、囚人のジレンマ、共有地の悲劇、最後通牒ゲーム等の思考実験や、環境保護、生命倫理等について概念的に考える学習活動を取り入れてはどうか。)

●中央教育審議会答申（平成20年1月17日）

8. 各教科・科目等の内容 ② 社会、地理歴史、公民

(i) 改善の基本方針

社会科、地理歴史科、公民科においては、その課題を踏まえ、小学校、中学校及び高等学校を通じて、社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する方向で改善を図る。

●高等学校学習指導要領 公民 第1 現代社会

1 目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 内容

(1) 私たちの生きる社会

現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。

3 内容の取扱い

(2) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 内容の(1)については、次の事項に留意すること。

(ア) 内容の(1)は、この科目の導入として位置付けること。

イ 内容の(2)については、次の事項に留意すること。

(ア) 項目ごとに課題を設定し、内容の(1)で取り上げた幸福、正義、公正などを用いて考察させること。

ウ 内容の(3)については、この科目のまとめとして位置付け、内容の(1)及び(2)で学習した成果を活用させること。地域や学校、生徒の実態等に応じて課題を設定し、個人と社会の関係、社会と社会の関係、現役世代と将来世代の関係のいずれかに着目させること。

●高等学校学習指導要領解説公民編

○現代社会

2 内容

(1) 私たちの生きる社会

現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。（中略）

従来の学習指導要領においては、社会的事象をとらえる概念的な枠組みとして「見方や考え方」の育成を図ることが求められたが、今回の改訂ではさらに現代社会の諸課題をとらえる枠組みを理解させることをねらいとしているのである。なお、この大項目は「この科目の導入として」（内容の取扱い）位置付けており、以後の学習においてここでの学習の成果を生かすことができるよう、また、単なる知識の習得に終わらせることなく、この科目全体の学習の動機付けとしてふさわしくなるよう留意して指導することが求められる。（中略）

「社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させる」については、現代社会の諸課題をとらえて考察するための基本的な枠組みを構成するものとして「幸福、正義、公正」などがあることを理解させるとともに、これらが社会の在り方を考察する上で大切なことを理解させることを意味している。「幸福、正義、公正」などの関係を説明すると以下ようになる。

一人一人の人間は、それぞれが自分らしく生き、自己の目的が実現できることを求めている。個々人は、自らの「幸福」を願い、充実した人生を求めているのであって、こうした願いができる限り実現できるよう配慮されていることが、現代社会の諸課題を考察する上で大切なことであると言えよう。しかし、自己の幸福の追求は、時として他者や他の集団、あるいは社会全体の幸福と対立や衝突することがある。

そこで、このような対立や衝突を調整し、いかによりよい社会を形成すべきか考察することが必要である。そのとき、すべての人にとって望ましい解決策を考えることを、ここでは「正義」について考えることであるとしている。つまり、ここでいう「正義」とは、何か特定の内容があると考えのではなく、何が社会にとって正しいのかということについて考えることが「正義」について考えることであるととらえているのである。

「正義」について考える際に、必要となってくるのが「公正」である。すなわち、「公正」とは、対立や衝突を調整したり解決策を考察したりする過程において、また、その結果の内容において、個々人が対等な社会の構成員として適切な配慮を受けていることである。また、「公正」であるとは、社会の制度や規範、あるいは行為の結果を正しいものとして人々が受容する条件が成り立っていることということもできる。例えば、対立や衝突の調整を図る場合、当事者のうち片方の主張だけを取り上げていないか、少数者にも配慮しながら社会の多数の幸福を図るようにしているかなど、手続きや結果についての「公正」が確保されているかどうかなどを一つの目安として考えることができる。

以上のように、「幸福、正義、公正」などは個別に取り上げて理解させるのではなく、現代社会における諸課題をとらえる枠組みとして相互に関連させて扱うことが大切である。現代社会において「幸福、正義、公正」などがどのような形で実現されてきたのか、諸課題を解決していく中で、「幸福、正義、公正」などをどのように実現していくのか、そのためには課題をとらえて考察するための基本的な枠組みはどのようなになっているのかということをも身に付けさせることを目指しているからである。

「社会科等における見方や考え方と思考力、判断力、表現力等」イメージ（たたき台案）

【高等学校地理歴史科、公民科】

思考力、判断力、表現力等

- 社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力
- 社会に見られる課題を把握して、それらの解決に向けて構想する力
- 考察したことや構想したことを説明する力、議論する力

【中学校社会科】
 (地理的、歴史的、公民的分野)

社会的事象の見方や考え方 (追究の視点や方法)

現代社会を捉える見方や考え方

個人と社会との関係に着目して
 社会的事象を見出し

現代の社会生活と関連付けて

社会的事象の地理的な見方や考え方

位置や空間的な広がりとの関わりに着目して
 社会的事象を見出し

地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との
 結び付き、人間の営みなどと関連付けて

社会的事象の歴史的な見方や考え方

推移や変化などに着目して
 社会的事象を見出し

比較して相違や共通性を明確にして
 原因と結果を関連付けて

① 考察する力

② 構想する力

③ 説明する力

④ 議論する力

帰納・演繹

比較・関連付け・総合

社会的事象の見方や考え方の基礎

- ・位置や空間的な広がり
- ・時期や時間の経過
- ・事象相互、人々の立場相互の関係 に着目して
 社会的事象を見出し
- ・事象を比較・分類したり総合したりして(特色)
- ・国民(人々の)生活と関連付けて(意味)

【小学校社会科】
 (第3～6学年)

【小学校生活科】
 (第1、2学年)

比較する、分類する、関連付ける
 などの思考

伝える、相互交流する、振り返る
 などの表現

幼児教育

身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。

生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ。

したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。

思考力、表現力の基礎の育成

社会との関わりを意識した課題解決的な学習の充実

社会的事象の見方や考え方（追究の視点や方法）の例（たたき台案）

※社会的事象の見方や考え方は、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察する際の「追究の視点や方法」である

小学校

考えられる追究の視点（例）

- 位置や空間的広がり
の視点
地理的位置、分布、地形、環境、
気候、範囲、地域、構成、
自然条件、社会的条件
- 時期や時間的経過
の視点
時代、起源、由来、背景、変化、
発展、継承、維持、向上、計画
- 事象相互、立場相互
の関係の視点
工夫、努力、願い、
つながり、関わり、協力、連携、
対策・事業、役割、影響

追究の視点を生かした「問い」の例

- ・どのように広がっているのだろう
- ・なぜこの場所に集まっているのだろう
- ・なぜ地域によって気候が異なるのだろう
- ・いつどんな理由で始まったのだろう
- ・どのように変わってきたのだろう
- ・なぜ変わらずに続いているのだろう
- ・どのような工夫や努力があるのだろう
- ・どのようなつながりがあるのだろう
- ・なぜ〇〇と〇〇の協力が必要なのだろう

社会科における思考力、判断力

◎社会的事象の見方や考え方の基礎

- ・位置や空間的な広がり
- ・時期や時間の経過
- ・事象相互、立場相互の関係
に着目して社会的事象を見出し
- ・比較・分類したり総合したりして
- ・国民（人々の）生活と関連付けて

↓ 追究の方法

- ・社会的事象の特色や意味を多角的に考察する力
- ・社会に見られる課題について、自分たちにできることを
選択・判断する力

習得する知識、概念の例

- ・組立工場を中心に部品工場が集まり盛んな地域を形成している
- ・駅の周囲は交通の結節点なので人が多いため商業施設が集まる
- ・国土の地理的位置や地形、台風などの自然条件によって気候は異なる
- ・祭りは地域の豊作や人々のまとまりへの願いから始まった。
- ・農作業は機械化により生産効率を向上させてきた
- ・伝統芸能はが技や道具が多くの人々に継承され今に至っている
- ・地域の安全は、関係機関の未然防止と緊急対応によって守られている
- ・食料生産は私たちの食生活を支える役割を果たしている
- ・政治には国民生活の安定と向上を図る働きがある
- ・世界の人々と共に生きるには、文化や考え方の違いを認め合い理解し合うことが大切である

中・地理的分野

○位置や分布に関わる視点
緯度・経度、方位、距離
領域、等質地域、地方的特殊性

○場所に関わる視点
地形、気候、植生、景観

○人間と自然の相互依存関係に関わる視点
生活様式、衣食住、自然条件

○空間的相互依存作用に関わる視点
機能地域、都市圏、社会条件

○地域に関わる視点
地域性、過疎・過密、先進・発展途上

- ・それは、どこに位置するだろう
- ・それは、どのように分布しているだろう
- ・そこは、どのような場所だろう
- ・そこでの生活は、まわりの自然環境から
どのような影響を受けているだろう
- ・そこでの生活は、まわりの自然環境に
どのような影響を与えているだろう
- ・そこは、それ以外の場所とどのような
関係を持っているだろう
- ・その地域はどのような特徴があり、それ
はどのように変化してきたのだろう

◎社会的事象の地理的な見方や考え方

- ・位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象
を見出し
- ・地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、
人間の営みなどと関連付けて

↓ 追究の方法

- ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に
考察する力
- ・地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を
踏まえて選択・判断する力

- ・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること
(具体例；明石市は大阪市の西にあり、その市立天文学館は日
本標準時子午線上の北緯34度38分、東経135度0分にあります)
- ・特定の事象は、地球の表面において特定の場所に広がること
(具体例；アマゾン川流域には、広大な熱帯林が広がっています)
- ・地球上の各地は、多様な特徴を持つこと
(具体例；岡山県の南部は、なだらかな平野が広がり、一年を通して
温暖な気候の地域です)
- ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること
(具体例；平野の乏しい日本では、その傾斜地を段々畑や棚田にす
るなどして利用してきました)
- ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと
(具体例；東京の周辺では、新鮮な農産物を生産し、都市の住民に
届ける近郊農業が古くから発展してきました)
- ・空間的な広がりには、固有の性格を持ち、変容すること
(具体例；中国地方の山間部では、人口減少や高齢化の進む過疎化
に悩む地域が広がっています)

中・歴史的分野

○年代の基本に関わる視点
時期、年代、時代区分

○諸事象の推移や変化に関わる視点
変化、発展、時代の転換

○諸事象の特色に関わる視点
相違、共通性、時代の特色

○事象相互の関連に関わる視点
原因、背景、ねらい
結果、影響、意味、意義

- ・いつ（どこで、誰によって）おこったか
- ・前の時代とどのように変わったか
- ・どのような時代だったか
- ・なぜおこった（何のために行われた）か
- ・どのような影響を及ぼしたか

◎社会的事象の歴史的な見方や考え方

- ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し
- ・比較して相違や共通性を明確にして
- ・原因と結果を関連付けて

↓ 追究の方法

- ・時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力
- ・歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・
判断する力

- ・今も世界に広まるいくつかの宗教は、数千年前に古代からの文明
地域の都市を中心におこった
- ・南北朝の争乱や戦国の動乱を経て室町幕府の統一的支配が弱まり、
大名による領国支配と民衆による自治的結合が進んだ
- ・近世は、江戸幕府等の強大な力を基盤に安定した全国支配体制が
形成され、産業・通商や町人文化が隆盛をみた時代であった
- ・東アジア各地の国家統一の動きをうけて、中央集権的な法治体制
をめざす律令国家の建設が進められた
- ・モンゴル襲来のおと御家人の経済的困窮と武家社会における専制
的支配への不満が強まり、鎌倉幕府は倒壊に向かっていった

中・公民的分野

○現代社会を捉える視点
対立と合意、効率と公正、
影響、意義、働き、機能、関連、
多様性

○社会に見られる課題や問題の解決策を構
想する視点
継承、創造、責任、役割、選択、
配分、向上、整備、保全、保護、
権利、義務、発展、維持、保障、推進、
形成、国際協調、貢献、熱意、
持続可能

- ・どのような影響を受けているのか
- ・私たちにとってきまりとは何だろうか
- ・なぜ市場経済という仕組みがあるのか、
どのような機能があるのか
- ・なぜ議会を通して政治を行うのか
- ・よりよい決定の仕方とはどのようなもの
か
- ・社会保障とその財源の確保の問題をど
のように解決していったらよいか
- ・民主政治を推進するために何が必要か
- ・世界平和と人類の福祉の増大のためにど
のようなことができるか

◎現代社会を捉える見方や考え方

- ・個人と社会との関係に着目して社会的事象を見出し
- ・それらの事象を現代の社会生活と関連付けて

↓ 追究の方法

- ・社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力
- ・現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏ま
えて選択・判断する力

- ・私たちのものの見方や考え方、判断、価値観などが文化によって
影響を受けている
- ・人間は社会的存在であり、よりよい社会生活を営んでいくため
にはきまりや取り決めが必要である
- ・人間の生活の維持・向上を図ることに経済活動の意義がある
- ・合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続
きや内容についての「公正」が必要である
- ・財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源
の確保と望ましい配分について対立と合意、効率と公正などの視
点から多面的・多角的に考察・判断することが大切である
- ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済
的、技術的な協力などが大切である

社会科等で育成すべき資質・能力の整理（たたき台案）

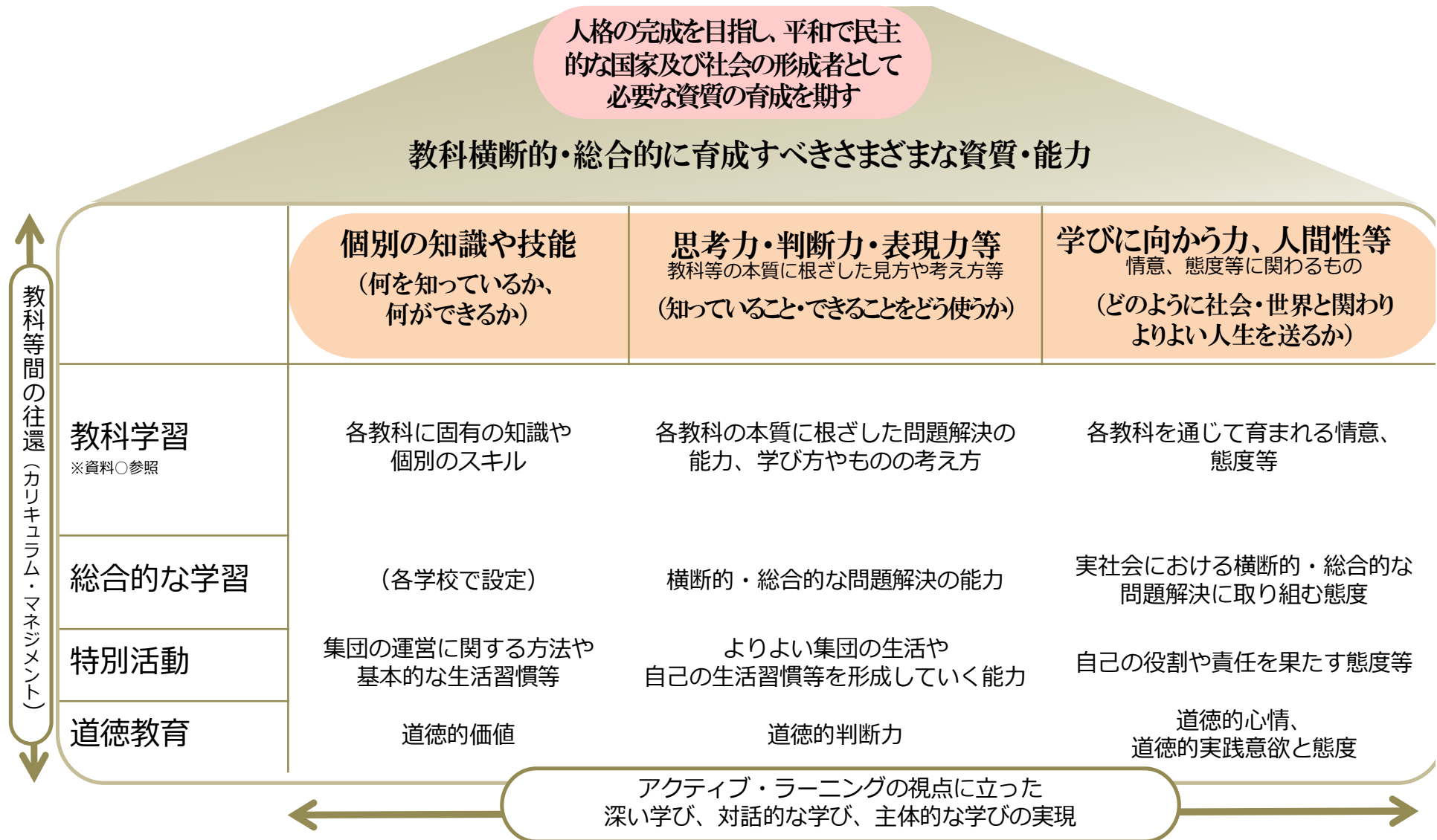
平成28年2月8日
教育課程部会社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ 資料7

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	情意・態度等に関わるもの (どのように社会、世界と関わりよりよい人生を送るか)
小学校 社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活についての理解(地域や我が国の国土の地理的環境、社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化、それらと人々の生活との関連) ・観察、資料活用の技能(社会的事象に関する情報を「集める」「読み取る」「まとめる」技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の見方や考え方の基礎を用いて、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、社会への関わり方を選択・判断する力 ・思考・判断したことを説明する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全や自然災害の防止、我が国の産業の発展や社会の情報化への関心、先人の業績や優れた文化遺産についての興味・関心 ・地域社会の一員としての自覚、地域社会に対する誇りと愛情、我が国の国土に対する愛情、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚 など ・*世界の国々との関わりや我が国の政治の働きへの関心、よりよい社会を考えようとする態度等について検討
中学校 社会	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と歴史に対する理解 ・国民主権を担う公民として必要な基礎的教養 ・資料活用の技能(社会的事象に関する様々な情報を適切に収集、選択、活用する技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の見方や考え方をを用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題や問題について公正に判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に対する関心 ・我が国の国土や歴史に対する愛情 ・国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者を目指す態度 など
地理的 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的な認識 ・地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどの地理的な技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の地理的な見方や考え方をを用いて、事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察する力 ・地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力 ・調査したことや思考・判断したことを地図等を用いて説明したり議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界の地理的事象に対する関心 ・生徒が生活している土地に対する関心 ・地域の課題を見出し、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度 など
歴史的 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史の大きな流れ、伝統と文化の特色の理解 ・歴史上の人物と文化遺産の理解 ・歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましの理解 ・年表など歴史に関わる諸資料を活用する技能 ・*世界の歴史の扱いを充実させること等を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の歴史的な見方や考え方をを用いて、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力 ・歴史にみられる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力 ・思考・判断したことについて説明したり議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象や身近な地域の歴史への関心 ・他民族の文化や生活などへの関心 ・我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚 ・国際協調の精神 ・歴史上の人物と文化遺産を尊重する態度 など
公民的 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を捉える見方や考え方の基礎としての対立と合意、効率と公正などの理解 ・政治や経済、国際関係に関する概念の理解 ・統計や新聞、映像など現代の社会的事象に関する諸資料を活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を捉える見方や考え方をを用いて、社会的事象を現代の社会生活と関連付けたり、現代の諸課題について公正に判断したりする力 ・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして社会に見られる課題についての自分の考えを再構成しながら議論する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会的事象に対する関心 ・自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることの自覚 ・各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることの自覚 ・社会に見られる課題に着目し自ら考えようとする態度 など ・*政治参加も含め社会に参画しようとする関心、態度等について検討

(参考)

学習指導要領等の構造化のイメージ (仮案・調整中)

下記のような構造をイメージしながら、各教科等の意義や教科・科目等の構成、各教科・科目等の内容を見直す必要があるのではないか。その際、教える側の視点だけでなく学習する側の視点にも立ち、学習プロセスの在り方や身に付ける資質・能力等について整理していく必要があるのではないかと。



○幼児教育においては、主体的な活動である遊びを通じて総合的に指導。

**(参考) 全ての生徒に共通に育むべき資質・能力と、高等学校各教科の必履修科目の関係等
(仮案・調整中)**

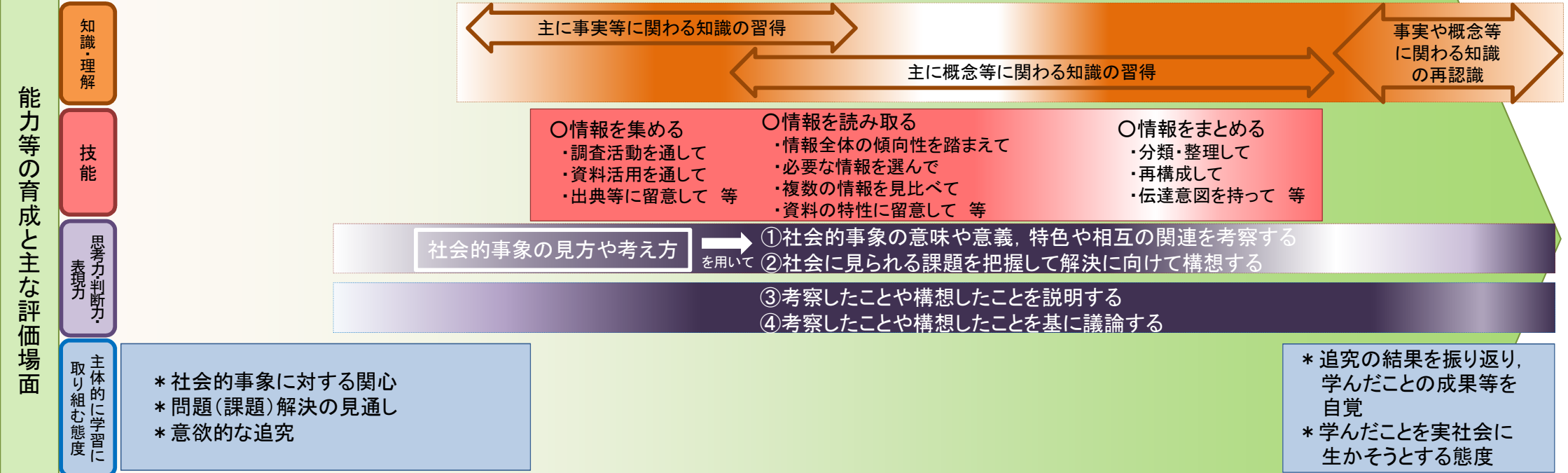
平成27年8月26日中教審 教育課程企画特別部会
論点整理 補足資料 関係箇所抜粋

	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることを どう使うか)	情意・態度等に関わるもの (どのように社会, 世界と関わり よりよい人生を送るか)
地理 (地理総合(仮称))	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や地理情報システムなどの地理的な技能 ・地球規模の自然システム, 社会・経済システムの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・位置や分布, 場所, 地域などの空間概念を捉え追究する地理的な見方や考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会づくりに向けて, 地球的課題や地域的課題の解決を模索する態度など
歴史 (歴史総合(仮称))	<ul style="list-style-type: none"> ・日本及び世界の歴史の考察に関わる概念の理解 ・歴史に関わる諸資料を活用する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・自国の歴史・グローバルな歴史を横断的・相互的に捉え, 諸資料を活用して, 歴史に関わる諸課題を考察する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚など
公民 (公共(仮称))	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸課題を捉え, 考察し選択・判断していくために必要な概念的な枠組みの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家・社会の形成者として必要な選択・判断を主体的に行い, 他者と協働しながら様々な課題を解決していく力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参画への意欲や態度 ・現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚など

* 高等学校地理歴史科, 公民科における新科目については, 今後さらに検討を進める。

社会科における学習プロセスの例（たたき台案）

		課題把握		課題追究		課題解決		新たな課題		
		動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り			
主な学習過程の例	小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習問題をつかむ <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を知る ・気付きや疑問を出し合う ・学習問題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 問題解決の見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> ・予想を立てる ・学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予想や学習計画に基づいて調べる <ul style="list-style-type: none"> ・観察や調査・見学、資料活用などを通して調べる ・他の児童と情報を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会的事象の意味、特色や相互の関連を考える <ul style="list-style-type: none"> ・多角的に考える、話し合う ● 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちができることを選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習問題を振り返ってまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことをまとめる ・考えたことをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習を振り返って考える <ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べ方や学び方を振り返る ・学習成果を(学校外の)他者に伝える ・新たな問い(課題)を見出したり追究したりする 			
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習課題を設定する <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題解決の見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を立てる ・調査方法、追究方法を吟味する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予想や仮説の検証に向けて調べる <ul style="list-style-type: none"> ・学校外での観察や調査などを通して調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の生徒と情報を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する <ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的に考察する ・話し合う(討論等) ● 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する <ul style="list-style-type: none"> ・複数の立場や意見を踏まえて解決について選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 考察したことや構想したことをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・結論について他の生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習を振り返って考察する <ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い(課題)を見出したり追究したりする 			

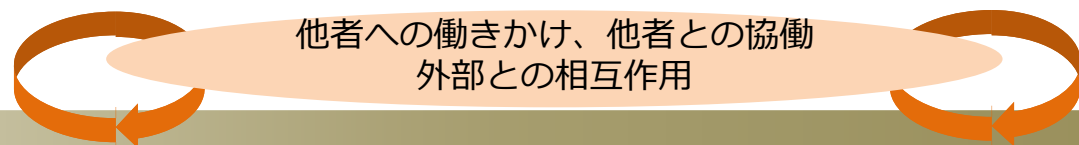


■ 学習過程全体について留意すべき点 ■

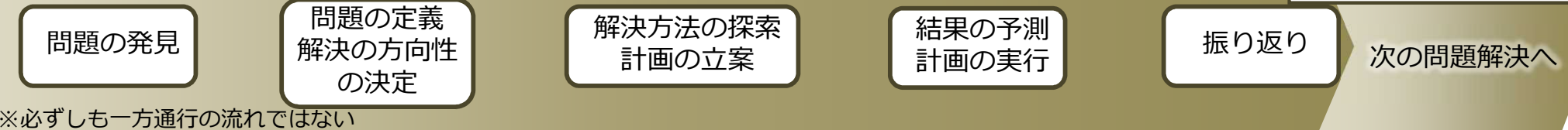
- ・各プロセスは例示であり、上例に限定されるものではないこと
- ・学習活動のつながりと学びの広がり(深い学び、対話的な学び、主体的な学び)を意図した、単元の構成の工夫等が望まれること

問題発見・解決のプロセス

検討中



(参考)
教育課程企画特別部会
論点整理参考資料



プロセスの中で働く思考・判断・表現等のうち、特に重視すべきものの例

